

特集

ラテンアメリカにおける 左派の台頭

1990年代のラテンアメリカは、市場原理を重視するネオリベラル経済政策が多くの政権で採用されていた。しかし2000年代になると、多数の「左派政権」が登場し、社会のひずみにも注目し社会政策を重視する政策を採用するようになった。また、メキシコでは僅差で敗れたものの大統領選挙において左派候補が躍進した。とはいえ、これら左派政権ないし左派政治家は経済・外交政策において一様ではなく、またそのイデオロ

ギー的志向や歴史的背景も異なる。

本特集では経済・社会・外交政策や政治スタイルのありかたの分析をとおして、各国で左派政権ないし政治家台頭の背景およびその性格を明らかにすることを目的としている。コロンビアでは保守派のウリベ大統領が再選されたが、第2期では社会開発を重視している。本特集ではコロンビアを含め、ラテンアメリカの政治状況理解を深めることをねらった。

(宇佐見耕一)

2006年7月メキシコ選挙

亀裂を深めるメキシコ社会

星野妙子

コロンビア

第2期ウリベ政権の課題

幡谷則子

社会正義の実現を目指して

ペルー・第2期ガルシア政権

清水達也

バチレ新政権の政策課題

チリにおける「ニュー・レフト」

のジレンマ

北野浩一

先住民政権の挑戦

「新しいボリビア」の建設に向けた

困難な道のり

遅野井茂雄

アルゼンチン・キルチネル政権の中間評価

宇佐見耕一



メルコスール第30回首脳会議(2006年7月20日 於コルドバ)

最近の大統領選挙と左派政権の登場



(注) アミ掛けは左派政権の国。
 (出所) 各種資料から作成。

(清水達也)